

全科協ニュース

URL <http://jcsn.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成15年3月1日発行（通巻第189号）

特集 新規オープン

■分野を超えて一つのコンセプトへ いのちのたび博物館リニューアル

北九州市立自然史・歴史博物館 久保田 裕明

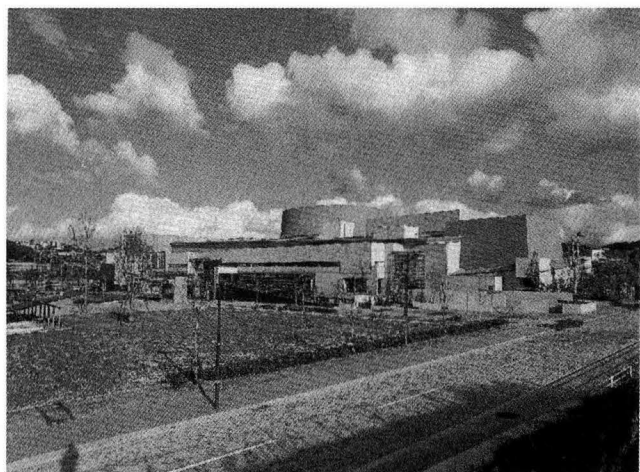
近代製鉄発祥の地をスミソニアンに

平成9年、北九州市では「SHINE 博物館構想」が策定された。この構想は、1901年官営八幡製鉄所が創業した八幡東区東田地区に、アメリカのスミソニアン博物館群を模した文化エリアを集中整備し、北九州市が進める「ものづくりの街」「環境先進都市」などのまちづくりプランを多くの人々に理解してもらおうというものだ。

博物館群のトータルなテーマは、「環境」。これを、自然、歴史、環境、産業科学の4つの分野を深く紹介する博物館に分けて建設する計画だ。まず、本年4月に環境ミュージアムがオープン。そして、11月3日、北九州市立自然史・歴史博物館がオープンした。

リニューアルがゆえの問題

オープンに到るまでには、様々な問題を一つ一つクリア



北九州市立自然史・歴史博物館

しながら進んできた。

まず、これほどの規模の博物館がリニューアルという形でできることはあまり例がなく、他の博物館を参考にすることが難しかった。

とにかく、20年にわたって収集してきた資料をどう展示し、どう収蔵するのかがかなりの問題であった。旧館に比べて立派な収蔵庫はあるものの無尽蔵にスペースがあるわけでもなく、新館に引っ越した瞬間に収蔵庫が一杯になってしまった分野もあるほどだ。もともと、博物館の収蔵物は、何がどれぐらいの量なのか見当を付けるのが非常に難しく、一体引越しにどれぐらいの日数と手間がかかり、収蔵スペースが必要なのか、やってみるまで分からないような状態であった。

展示については、開館の5年前ぐらいに展示計画を策定し、打ち合わせを重ねて設計・制作・設置を行った。こう見れば、計画的に淡々と進むように思えるだろうが、やはり、いざ現場に設置してみると、業者と学芸員の考え方の違いや運営面での問題が続出し、オープンするまで手直しが続いた。考えてみれば、博物館の運営については展示業者よりも（博物館側に）ノウハウがあり、どうしても危ない場所などが目に付いて、結果的に手直しが多くなってしまった。これは、展示業者からみた「リニューアルがゆえの問題」だっただろう。

生命の進化が一堂に

北九州市立自然史・歴史博物館は、約6100㎡の展示面積

を誇る西日本最大級のもので、約6000種の実物化石・動植物標本・歴史資料などが展示されている。SHINE 博物館構想では、自然史と歴史の二分野を紹介する博物館となるが、ハードとソフト両面の効率を考えて、一つの博物館にまとめ、館内で二つのゾーンに分けている。

この博物館は、46億年前の地球誕生から現代にいたる、自然と人間が歩み続ける生命の進化の道程を見つめていく存在であろうという思いを込めて、愛称を「いのちのたび博物館」と決めた。

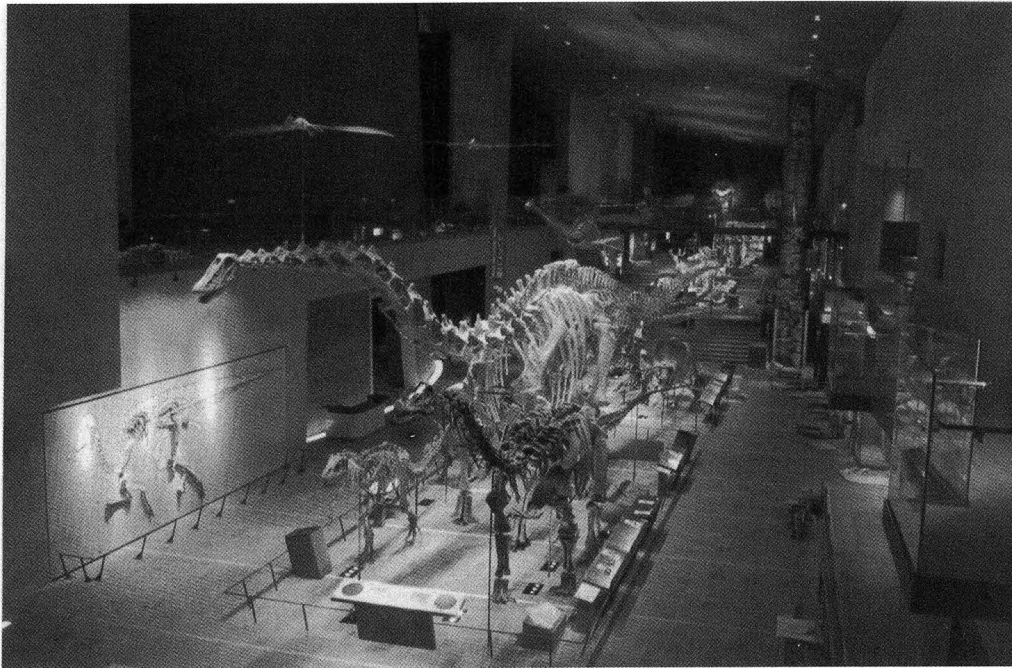
入館者の目の前にまず飛び込んでくるのが、生命の進化を100メートルの回廊に一堂に展示したアースモールだ。ここには、地球誕生を解説する地学現象コーナー、生命の誕生した古生代、恐竜が繁栄した中生代、そして哺乳類の新生代、生命が多様化した現世へと続いている。この回廊を一直線にあるだけで、生命の進化がはっきりと見える。

「いのちのたび」の象徴的な展示空間である。

来館者の目で創った博物館

この博物館は、展示のコンペの後、建物の設計コンペを行った。つまり、何をどう展示するかに合わせて、建物の形を考えた博物館だ。来館者への見せ方にこだわった建物であるだけに、360度体感型のジオラマにリアルな恐竜のロボットが動くエンバイラマ館や100メートルの回廊で天井高が10メートル以上あるアースモールなどの画期的な展示空間が完成した。

このことから、今までの博物館にはない、自由な空間もたくさん生まれた。例えば、来館者が自由に好きなのところを見られるよう導線の設定がなく、各コーナーが、自然発見館、探究館という名称で呼ばれ、アースモール、カルチャーモールという回廊で繋がっている。その途中には、ポケ



アースモール

美術

は く 製

〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

ミュージアムの集客を強力にサポート
新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】

イベント情報ポータルサイト
EventNAVI
<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご活用ください。

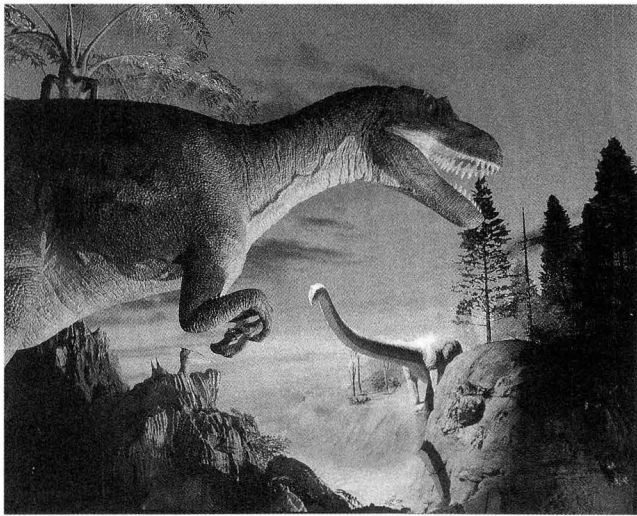
イベント情報
無料登録受付中！

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 ☎03-3455-1171
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得（文化環境カンパニー）ISO14001認証取得（MCカンパニー）

ットミュージアムという小さな展示スペースが11箇所あり、ショッピングモールの路面店のような彩を加えている。日常の感覚に近いところで、カジュアルに博物館を楽しんでもらうための演出である。



エンバイラマ館

目指すはコラボレート

新博物館は、単に自然史と歴史、考古の3館をまとめてリニューアルしたわけではない。分化が進む博物館の流れに真っ向から逆らうような一体化であることは承知しながら、どう逆行するかということに正面から取り組んでいる。

ハード面では、旧3館合わせて2000㎡だった展示面積を3倍強の6100㎡にしたことであり、「ミュージアムコンプレックス」という考え方に貫かれ、自然史・歴史の各分野もいくつかの独立した館に分け、どう見るかを全て来館者の選択にまかせていることなどで理解していただけるだろう。

ソフト面では、「いのちのたび」というコンセプトによって自然と文化を同じテーブルで考えようという試みで理解していただこうと考えている。

生命の進化の道筋には自然と人間があり、人間の進化は文明という形で具現される。人間が偏った進化をした結果として、環境問題が起これ、その問題を解決しようとしてもう一步進化を遂げている。このような営みを紹介するためには、自然史と歴史の分野をうまくコラボレートしていく必要がある。

いのちのたび博物館は、動的な博物館であり続けようと考えている。目指している究極のテーマも、自然と人間との共生であり、自然が歩んで来た道と人間が創って来た道とが、どうすればうまく交わるかを探っていくことに置

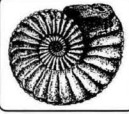
いている。これを実現するためには、自然史・歴史の様々な分野を、うまくコラボレートできて初めてなし得るものだと考えている。

●施設概要

館 名	北九州市立自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館)
住 所	北九州市八幡東区東田2-4-1
TEL	093-681-1011
URL	http://www.kmnh.jp/
オープンの期日	平成14年11月3日
建物面積	約31,000㎡
延床面積	約17,000㎡ 展示面積 6,139㎡ 交流部門面積 1,429㎡
主な展示コーナー	アースモール、エンバイラマ館 ポケットミュージアム、自然発見館 歴史ゾーン、ギャラリー館、こども館
工 期	平成11年～14年
総工事費	約170億円 (うち展示工事費 26億円)
展示業者	㈱丹青社

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

■東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp

■ 科学館リニューアルの工夫

川口市立科学館～次世代の科学館をめざして～

川口市立児童文化センター 詫間 等

1. 概 要

当館は埼玉県が川口市と共同して整備を進める SKIP シティ内に新設された太陽をテーマとする科学館である。SKIP シティとは、NHK アーカイブス・県映像ミュージアム・県産業技術総合センター・早稲田大学川口芸術学校・情報通信関連企業などの施設を集積し、新しい映像産業拠点として機能させることを目的に計画されたもので、2003年2月に街開き式典が行われた。これらの施設群の中で当館は隣接する生活科学センターや映像ミュージアムとともに、このエリアに多くの人が集うための契機となることを期待されている。当館のある建物は科学棟と呼ばれ施設群の最南端に位置し、導入空間であるアトリウムにより県の施設がある総合棟と接している。科学棟は鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積は約3500㎡である。1階は床面積約1000㎡の科学展示施設と事務所など管理空間、2階は研究室・資料室など学芸空間、3階はドーム径20mのプラネタリウム施設、そして隣接する総合棟屋上には太陽望遠鏡などが設置された3つの天文台が並ぶ。

2. 科学館計画の策定

(1) 設計施工の分離

当館の計画推進にあたって第一に意図したのは設計施工の分離である。両者が同じ場合は詳細まで詰めなくても施工可能というメリットはあるが、逆に運営側の検討が不十分のまま進めがちで後に支障を来すおそれがある。また旧来の殻を破るような概念も出にくく、次世代の科学館を目指すという目的にもそぐわない。そこで、科学館のあるべき姿を求めるという視点で提案協議を行ってコンサルタント業専門の設計会社を選定し、科学館の機能・施設や運営のあり方・展示の方向性など科学館として考慮すべき事項についての検証を行うことからスタートした。設計作業は3年続きで行い、基本構想～基本設計～実施設計とより具体化をはかり設計図書にまとめた。そしてこの実施設計をもとに、個々の施工会社を選ぶという二段構えの手法を

とったのである。これは展示だけでなくプラネタリウム、天文台、ネットワークの全てに対して行った。また施工段階に入ってからでは設計会社を設計監理として加え、科学館の理念をより確実に製作にも反映できるよう配慮した。

(2) 組織体制

科学館立ち上げには準備室の組織から始めるのが通常である。膨大な作業量と柔軟な対応という点から見ても準備室は必須の組織と言える。しかし川口では科学館を含む施設全体の建設主体は県、科学館の内部整備は市という特殊な事情もあって準備室の設置が見送られた。そのかわり、それをカバーするため以下のような体制をとった。まず、当館の前身である児童文化センターが主な実務を担当する。次に、設計会社に計画を進める上でのコンサルティングとサポートを求め、設計会社の持つ多くの頭脳と豊富なノウハウを利用できるようにする。また建築、電気設備など市の関連部課員からなる作業部会を組織し市内部でのコンセンサスを得、調整を円滑に進めるようにする。更に、天文・科学展示・プラネタリウム・映像・ネットワーク・科学館運営など各分野の学識経験者を入れた専門委員会を組織し専門的見地から内容の適正化をはかるようにする、等々である。

3. 展示計画の策定

展示は科学館の共通項でありその成否は館の印象を大きく左右する。国内の科学館ではハンズオンの概念に基づくエキスポラトリウムの展示手法が主流になっているが、当館ではそれを発展可能性のあるテーブルという形に凝縮している。

(1) 科学のスタンダード

展示のプランニングは設計会社展示チームと協議を重ね基本方針の確認をすることからスタートした。そこで留意したのが専門委員の示唆による科学のスタンダードという

概念である。科学原理は世界共通である。それを具現化したのが展示であり科学展示に類似性があるのは当然の帰結である。重要なのは運営側として何をしたいかであり、運用が展示内容を決める最大要素である。

(2) 展示理念

展示の基盤にある概念は次のようなものである。a) 科学展示は科学の原理原則を教えるのみではなく、体験～科学的行為を通して科学的なものの見方や考え方を深化させるものであること。b) 科学展示の運用は人を媒介として行う。このとき人は教授者としてではなく自主学習の支援者として機能する。c) 展示物は人的配置がされることを考慮して設計する。従って解説的なものは必要最低限におさえるようにする。また安易に答えを示さないようにする。d) 展示道具はできるだけシンプルなものにする。展示は自分の意欲を映す鏡であり自分で努力しなければ何も動かないし何も分からない。e) 身近な事象の中から自然法則を発見できるものにする。サンプルは身近から、しかし表現は一流で。f) 楽しみながら学ぶのではなく学ぶことが楽しいを主眼とする。アミューズメントを求めるのではなく、分からないことが分かったという喜びをターゲットにする。

(3) 試作、実験検証

展示製作段階で重視したのが展示施工チーム～設計者～センタースタッフ間での定期的な討議である。多くの時間を割くことになるが市側の意図をより明確に施工チームに伝えるためには不可欠の作業である。またこれにあわせ

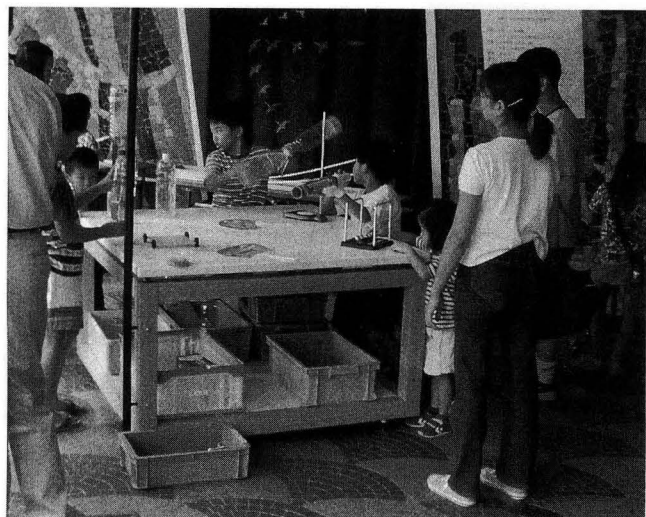
て行ったのが試作である。当館の展示装置の多くは製作過程において試作品を作り実験検証を行うようにした。特に基本モジュールであるテーブルは児童文化センターに数ヶ月間仮置きし実際の来館者の様子をモニターするなども行っている。これにより図面上では分からない展示装置の運用上の課題が明確になるなど、試作品製作による実験検証もまたより良い展示装置製作には欠かせないものと言える。

(4) 展示の実例

展示室は天井高7 mの仕切のない大きな空間になっており、2階の研究室からほぼ全体を一望することができる。展示室中央には科学実験ショーのためのステージとスタッフが常駐するラボがあり1クラス程度の人数に対応できるようになっている。展示室の周囲には壁面を埋め尽くすように収納棚が並んでいる。ここには様々な実験器具がコンテナ毎にまとめて置かれ、テーブル上で任意の実験をすることができる。展示室は導入部である観察発見を主体とする? BOXゾーン、実験検証を主体とする実験BOXゾーン、創造発表を主体とするワークゾーンに分けられ、観察～発見～創造～発表という一連の行為を通じ学習の深化ができるようになっている。展示物の配置は分野別ではなく、当館のテーマ太陽から派生したサブテーマ、力・光・水・大気・生命をベースに機能別に配置されている。特徴ある展示物としてはスーパー実験ボックスと大別される NAGAI (波の実験など長さが要求される展示)、KURAI (光の実験など暗さが要求される展示)、TAKAI (落下実験など高さが要求される展示) の展示装置などがある。

●施設概要

館 名	川口市立科学館 (サイエンスワールド)
住 所	川口市上青木3-12-18
TEL	準備中
URL	準備中
オープンの期日	2003年5月3日(予定)
延床面積	約3,500㎡ 展示面積 約1000㎡
主な展示室名	科学展示室
展示工事費	展示工事 約7.3億円
展示業者	(株)ムラヤマ



試作品のテーブル

2002年度オープンした施設 沖縄美ら海水族館

沖縄美ら海水族館 飼育展示課

水族館の概要

本館は沖縄県の海洋博覧会記念公園内にあり、公園のテーマである「太陽と花と海」の海を担う施設である。沖縄県は暖流黒潮の影響で熱帯・亜熱帯の水族が数多く生息しており、その熱帯・亜熱帯の生物を自然の環境を再現した大小様々な水槽で見ることができる。基本的な展示のコンセプトはサンゴ礁の浅瀬から黒潮の流れる外洋へ、そして深海へと続く沖縄の海の旅を目指しており、体験・体感できる展示を目指している。

展示内容

タッチプール：サンゴ礁の内側（礁池）を再現した水槽。

安全な無脊椎動物（ナマコ・ヒトデ等）を展示。実際に手にとって見ることができる。

サンゴの海：約80種の造礁サンゴの大規模飼育水槽。豊富な自然海水を用い、水槽の天井がなく、自然光が直接入る構造になっている。

熱帯魚の海：沖縄近海のサンゴ礁に生息する魚類約280種、2800点を展示。サンゴ礁の複雑な地形（礁池、礁縁、海底洞窟）を忠実に再現。

黒潮の海：外洋の海を再現。水量7500トンの大水槽にジンベエザメ3尾、オニイトマキエイ4尾を飼育。他にも黒潮を回遊する魚を多数展示。

深海の海：深い海に生息する珍しい生物を多数展示。

世界初への試み

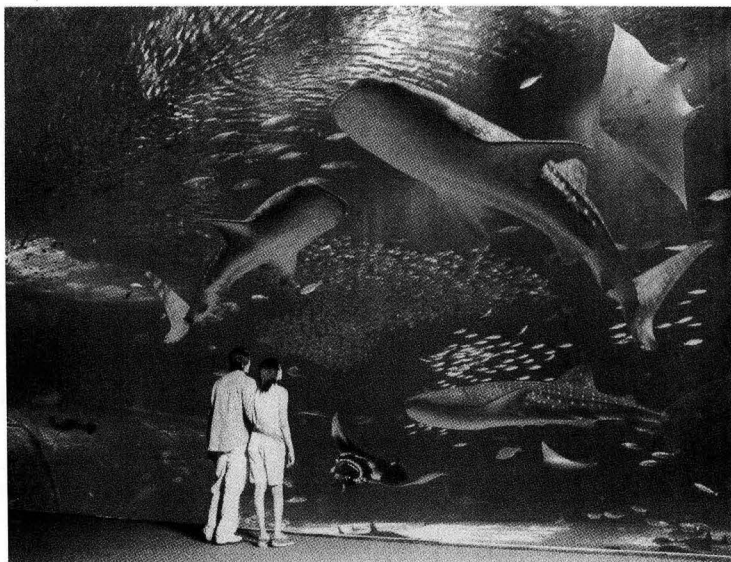
ジンベエザメ、オニイトマキエイの複数飼育・繁殖への挑戦。

生きたサンゴの大規模飼育、繁殖、移植への挑戦。

参加型的水族館

水族館をより身近に感じてもらうために、生き物に直接触れることができるタッチプール、飼育係の解説や面白い話が聞けるアクアラボ、大水槽を上側から見ることでできる水上観覧ツアー等を実施。また、いくつかの水槽では解説員による様々な説明もあり、気軽に質問することもできる。

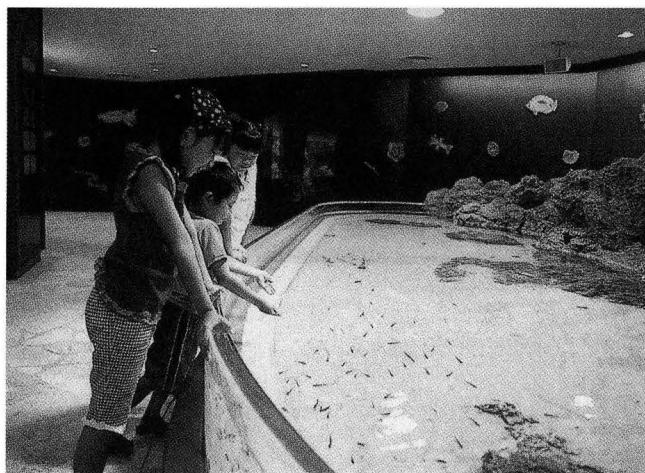
サンゴの部屋ではサンゴだけでなくサンゴ礁に住む危険な生物の知識を、サメ博士の部屋では、二十数年間の飼育・研究実績を、深海探検では深海の水圧・水温や珍しい生き物を、楽しみながら、触れながら学習できるスペースとした。



「黒潮の海」大水槽

以前より改善した、新しくしたこと

ジンベエザメの立ち泳ぎ姿勢での給餌が可能な水深10メートルの水槽など、従来、施設的な問題で展示できないなどの事項を解決すべく、施設・設備面での改良を加えた。



タッチプール「イノーの生き物たち」

製作中の様子、苦労

旧水族館（海洋博公園水族館）を維持管理しながらの開館準備のため、多くの人手を要した。

●施設概要

館 名	沖縄美ら海水族館
住 所	沖縄県国頭郡本部町字石川424番地 海洋博公園内
TEL	0980-48-3748
URL	http://www.kaiyohaku.com/
オープンの期日	平成14年11月1日
建物面積	10,000㎡
延床面積	19,000㎡
主なコーナー	4 F…黒潮探検 3 F…タッチプール「イノーの生き物たち」、サンゴの海、熱帯魚の海 2 F…サンゴの部屋、美ら海シアター、サメ博士の部屋、危険ザメの海水槽 1 F…黒潮の海、アクアルーム、ジンベエザメ・マンタコーナー、深海探検の部屋、深層の海、わくわくアクアラボ
工 期	平成9年～平成14年
総工事費	140億円
展示業者等	(株)沖縄ノムラ、(株)電通テック

歴史体感

ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩わんばかりの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館／日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工

kokoro
株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

インディアナポリス子ども博物館に、バイオ技術学習センターが3月にオープン

インディアナポリス子ども博物館（米国インディアナ州インディアナポリス）に、世界の食糧問題の未来を握るバイオ技術についての理解を目的とした学習センターが2003年3月3日にオープンする。

『Biotechnology Learning Center』という名称をもったこの新しい施設は、遺伝子組み換え作物の製造・販売を手がけている米大手農業メーカーのダウ・アグロサイエンス社（本社：インディアナポリス）の全面的な協力を得て、同館の5階にある「ダウ・サイエンス・ワークス Dow Science Works」の展示ホールに設けられることになっている。さまざまな植物を使ったバイオ技術の開発の歴史と最新の研究成果が展示で紹介されることになっている。

また約140㎡の広さをもった実験工房のスペースでは、バイオ技術の実験が行われることになっている。対象は、主に小学生高学年から中学生までだが、子育て期間中の大人への啓蒙にも力が入れている。オープンに先立ち、新しい施設の概要やバイオ技術に関する基本的な情報を紹介するホームページも設けられた。

<http://www.childrensmuseum.org/biotech/about.htm>

インディアナポリス子ども博物館に、恐竜展示ホールが2004年にオープン

インディアナポリス子ども博物館では、2004年のオープンをめざして、総工費2500万ドルの新しい恐竜展示ホール『Dinosphere』の整備が進められている。新しいホールでは、6500万年前の白亜紀の恐竜の紹介が中心になっている。

白亜紀の森林が設けられることになっており、その中で恐竜の吼え声や足音の震動が、人工的に作られた霧や湿地帯特有の蒸せた臭いが環境の中で演出される計画だ。主役は、発見者のバックキー・デフリンガーにちなんで「バックキー」という愛称がついたティラノサウルスである。この恐竜はほぼ完全な状態で世界で4番目に発見されたティラノサウルスであり、さらに叉骨 (furcula) が発見された唯一の恐竜であることも大きな特色だ。その他に、ヒパクロサウルス、レプトセラトプス、トリケラトプス、ゴルゴサウルス、マイアサウラ、オヴィラプトル等の白亜紀に生存

した恐竜が紹介されている。

このプロジェクトでは、著名な恐竜学者のロバート・バッカー博士をはじめ、シカゴ大学のポール・セレノ博士、ロイヤル・ティレル古生物学博物館のフィリップ・カリ博士とエバ・コッペルハス博士、中国科学院古脊椎動物古人類研究所の董枝明博士が加わっている。

2001年10月1日にオープンした『パレオ・プレップ・ラボ Paleo Prep Lab』は、このプロジェクトの一環として設けられ、子どもとその親は、ここで専門家による恐竜の化石のクリーニングが間近で見られる。

なお新しい展示ホールがオープンする時に、約1000点の恐竜のおもちゃも展示されることになっている。これらのおもちゃは、ペンシルバニア州在住のコレクターであるジョー・デマルコ氏から購入したコレクションであり、古くは1920年代に製造された恐竜模型をはじめ、多くは1950年代から60年代にかけて大量に製造されたものだ。

<http://www.childrensmuseum.org/dinosphere/>

ロンドン科学博物館で、スパイ映画の古典『007』の特
別展が開催中

世界の代表的な科学博物館で、なぜ娯楽映画の特別展か？
読者は、このタイトルに首をかしげるに違いない。しかし、
ロンドン科学博物館が、ヨークの国立鉄道博物館とブラッ
ドフォードにある国立写真・映画・テレビ博物館とともに、
国立科学産業博物館（機構）を形成していることを知れば、
すぐさまなるほどと思うに違いない。

ともあれ、科学との関連性は横に置くとして、国立写真・映画・テレビ博物館が企画した特別展『Bond, James Bond』が、ロンドン科学博物館で2002年10月16日から2003年4月27日まで開催されている。同展は、1962年に最初に完成した「ドクター・ノー」（ジョン・コネリー主演）から昨年完成した最新作「007／ダイ・アナザー・デイ」（ピアース・ブロスナン主演）までの40年間の歴史（全20作）を振りかえりながら、この人気映画のシリーズで使われたさまざまな撮影技術、音響技術、セットなどがふんだんに紹介されている。

会場は、「作品のタイトルの決め方」「MI 6」「Q：MI 6
の装備制作部門」「ボンドを取り巻く女性たち」「ボンド映画
のスタント」「ボンド映画のセット制作」「ボンド映画のマー

ケティング」のコーナーに分かれている。「ボンドを取り巻く女性たち」でミエ・ハマが見られるかどうかは不明だが、この特別展について、同展の特設ホームページで豊富な情報を提供している。

<http://www.sciencemuseum.org.uk/exhibitions/bond/>

カナダ自然博物館で、ロシアの恐竜化石展を開催

モスクワのロシア科学院古生物学研究所所蔵の恐竜化石を紹介した特別展『偉大なアジアの恐竜たち！ Great Asian Dinosaurs!』が、オタワにあるカナダ自然博物館で、2002年10月3日から2003年1月5日まで開催された。

同展では、過去70年に渡って、ロシアをはじめモンゴルと中国や旧ソ連のいくつかの共和国で発掘された恐竜（約60体）や先史時代の哺乳類と爬虫類の化石が紹介された。中でも今の北米大陸で生息していたティラノサウルスの仲間アジア大陸に生息していた「*Tyrannosaurus bataar*」とその主なエサだったと考えられている草食恐竜「*Sauropus angustirostris*」の実物化石は人々の強い関心を引きつけたようだ。またペルム紀（2億9千万年前から2億5千万年前まで）に生存した爬虫類の貴重な化石も紹介された。

http://www.nature.ca/exhibits/asiandinos_e.cfm

http://www.nature.ca/exhibits/gad_speclist_e.cfm

パリ国立自然史博物館で、火山災害を紹介した特別展が開催中

1902年5月8日、時計の針が午前8時を少しまわった時のことである。カリブ海に浮かぶ小アンティル諸島の一つ、フランス領マルティニク島のプレー山の噴火から発生した火砕流は島内の最大の町サン・ピエールを瞬く間に襲い、約30,000人の住民のほぼ全員の尊い命を奪った。生存者はたったの二人。この悲劇を紹介した特別展『人を殺す火山』（原題：Volcans Meutriers）が、パリ国立自然史博物館で開催されている。同展のホームページでは、当時の噴火の様子を撮影した貴重な映像が紹介され、見る者を戦慄させる。同展では、西暦79年8月24日にヴェスヴィオ火山の爆発によって滅びたポンペイの遺跡も紹介している。会期は2002年10月から2003年2月まで。

ホームページで、日本に紹介されることが少ないフランスの自然史系展示のかけらを見ることができる。

<http://www.mnhn.fr/expo/volcans/index1.htm>

<http://www.mnhn.fr/expo/volcans/index/expo2.htm>

ドイツ博物館で、科学実験の一般書を紹介した特別展を開催中

『楽しみながら、知識を身につける：19世紀と20世紀の一般向け実験読本』（Zur Belustigung und Belehrung Experimentierbücher aus zwei Jahrhunderten）は現在ミュンヘンのドイツ博物館で開催している特別展（図書展）のタイトルである。19世紀と20世紀において、ドイツで一般大衆の間で広く科学知識の普及を目ざした実験読本が多く出版されたが、同展はドイツ博物館付属図書館で多く所蔵しているそうした蔵書の中から代表的なものを選んで紹介している。会期は、2002年11月22日から2003年2月28日まで。

http://www.deutsches-museum.de/ausstell/sonder/buch_ex.htm

ミネソタ科学博物館で、バイキング展を開催中

米国ミネソタ州の州都ミネアポリスと隣接したセントポール市は、今ではソマリアからの難民が多く居住しているところであるが、もともとは19世紀から今日に至るまで、アメリカの中でも北欧からの移住者が多く住んでいるところとして知られている。

そうしたユニークな土壌にあるミネソタ科学博物館（セントポール市）に、現在バイキングの活躍を紹介した特別展『Vikings: The North Atlantic Saga』が開催されている。

北欧各地の博物館から借りたバイキング関係資料を使って、広範囲にわたってヨーロッパで活躍（荒らし回った）したバイキングの足跡、グリーンランドとアイスランドへの移住、清教徒がアメリカに渡るずっと以前にバイキングが既にアメリカに渡り、そして先住民と出会った事実等が紹介されている。展覧会のオープニングには、アイスランドのオーラブル・アアクナル・グリムソン大統領による開催記念スピーチが行われた。会期中、さまざまな行事が行われているが、中でもミネソタ科学博物館が得意としている「ストーリーテリング」によるインタープリテーションを用いて、バイキングの衣装を着たストーリーテラーが、バイキングの神々、今でも北欧で語り継がれているバイキングの神話の話を子どもたちと大人に行っている。会期は、2002年11月23日から2003年5月18日まで。

<http://www.smm.org/vikings/Village.php>

*（やすい・りょう） E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

3月4月の特別展

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
秋田県立博物館	菅江真澄資料センター企画展「収蔵資料の紹介」	2月18日～4月6日
ふくしま森の科学体験センター	春の特別企画展「スポーツの科学」	3月15日～4月13日
産業技術総合研究所 地質標本館	第1回「地質写真」コンテスト	2月18日～3月25日
栃木県立博物館	人文系テーマ展「おじいさんやおばあさんの子供のころの暮らし」	12月14日～3月30日
栃木県子ども総合科学館	企画展「数学と遊ぼうーかたちと数のワンダーランド」	3月15日～4月6日
群馬県立自然史博物館	第18回企画展「ツノ出せ、ツメ出せ、キバを出せ」	3月15日～5月18日
さいたま市青少年宇宙科学館	企画展「もう一つのロボット展」	2月1日～3月16日
	企画展「大昆虫展～館収蔵標本～」	4月12日～6月22日
埼玉県立自然史博物館	企画展「こけ・コケ・苔」	1月4日～6月8日
我孫子市鳥の博物館	テーマ展「日本の鳥」	11月9日～3月30日
科学技術館	春休み特別展 サイエンス・カーニバル2003	3月29日～4月6日
機械産業記念館	「次世代カーとITホーム	PART II
	～日本発エコ&ユビキタス技術」	PART III
国立科学博物館	神秘の王朝ーマヤ文明展	3月18日～5月18日
	環境パネル展示（仮称）	3月27日～4月6日
	第19回植物画コンクール入選作品展	4月8日～5月8日
たばこと塩の博物館	企画展「たばこと塩の動物園～動物意匠の喫煙具たち～」	3月8日～5月11日
東京都高尾自然科学博物館	特別展示「虫めがねの世界」	12月14日～3月30日
横浜こども科学館	特別展「びっくり!! スゴイつみ木=魔法の板・カブラ=」	3月21日～7月6日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「日本の自然にヘラクレスはいらないー移入昆虫がもたらす諸問題を考えるー」	3月21日～4月6日
富山市科学文化センター	自然観察スケッチ展	2月22日～3月9日
	写真展「すばらしい自然を」	3月15日～4月13日
いしかわ動物園	春の特別展「ホネ、ほね、骨ー体を支える仕組」	3月19日～5月5日
岐阜市科学館	春の特別展「電気の旅」	3月8日～3月31日
中津川鉱物博物館	第13回私の展示室「中津川の植物ー私の植物画日記から」	3月16日～5月11日
東海大学自然史博物館	「牧羊の角? アンモナイト展」	1月2日～4月6日
ディスカバリーパーク焼津	企画展「駿河湾の深層水」	3月18日～4月6日
名古屋市科学館	企画展「地球のデザイン」	3月15日～30日
でんきの科学館	「数を楽しく学ぶ! ラ・ビレット展」 ～おもしろ“かず”の大冒険～	3月21日～30日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示「世界の水辺の暮らし百年ー今昔写真と生活用具で探るー」	3月11日～30日
	水族企画展示「びわ湖・淀川・大阪湾水の旅ーびわ湖で少なくなった魚と貝ー」	3月8日～4月6日
きしわだ自然資料館	特別展「海と魚と大阪湾ー海はつづくよどこまでもー」	2月1日～3月30日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
明石市立天文科学館	日本の宇宙開発展	3月21日～5月11日
出雲科学館	企画展「スペースツアー」	1月19日～4月13日
広島市こども文化科学館	たのしい工作室一年のあゆみ展	3月14日～4月6日
広島市交通科学館	企画展「はたらくのりもの大集合ーパトカー・消防車ー」	1月28日～3月30日
あすたむらんど徳島子ども科学館	春休み特別企画「視覚のふしぎ」	3月20日～4月7日
愛媛県立博物館	テーマ展「えひめ生きもの写真展」	2月1日～3月26日
	テーマ展「春のチョウ」	4月1日～5月25日
愛媛県総合科学博物館	企画展「植物のおぼえ方」	2月27日～3月16日
	企画展「きれいないし」	3月22日～4月20日
福岡市立少年科学文化会館	巡回展「バランスグローブ」	2月25日～4月13日
	「ロシア・カムチャッカの自然」写真展	3月9日～30日
福岡県青少年科学館	「わくわくファンタジーワールド ～みえる？さわれる？ふしぎな映像～」	2月15日～4月6日
北九州市立自然史・歴史博物館	特別展「Come Back！よみがえれ文化と生きもの」	3月1日～4月6日
鹿児島県立博物館	企画展「野山を彩る鹿児島のツツジ」	3月21日～5月25日
沖縄県立博物館	企画展「沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像～」	2月4日～3月23日

■ 展示更新 ■

■NHK放送博物館

[展示室名] 「テレビ放送の50年」3階展示室(新設)
「放送のライブラリー」4階展示室(新設)

[主なコーナーの名称]

「テレビ放送の50年」

楽しさと感動を(ドラマ、歌謡番組)、時代を語る放送機器、ニュース・より早く より正確に

「放送のライブラリー」

番組公開ライブラリー(映像)、図書・史料ライブラリー

[新設展示面積] 1,060㎡(3階展示室、4階展示室)

[オープンの期日] 平成15年2月1日



[準備期間] 実施設計：平成14年4月～8月

施工期間：平成14年9月～平成15年1月

[担当業者]

(建築) 設計：(株) NTT ファシリティーズ

施工：戸田建設(株)

(展示) 設計・施工：(株) NHK アート

■新潟県立自然科学館

[展示室名] 生活の科学3階

[主なコーナーの名称]

「バーチャル・リアリティー劇場」、「バーチャル・リアリティーのしくみ」、「バーチャル・リアリティーで遊ぼう」、「バーチャル・リアリティーの実演」

[更新の展示面積] 90㎡

[オープンの期日] 平成15年3月1日

[準備期間]

基本設計：平成13年11月～平成14年2月

実施設計・施工期間：平成14年5月～平成15年2月

[担当業者] (株) 丹青社

[総工費] 122,640千円

全科協情報

○まだ間に合う！ 巡回展「スポーツの科学」

ー平成15年度開催館の再募集についてー

巡回展「スポーツの科学ー知ろう！さわろう！ためしてみよう！ー」について、辞退等の関係から平成15年9月から12月まで、期間が空きましたので、再度開催館を募集しています。開催を希望される館、または巡回展に関する問合せがありましたら、事務局宛てにご連絡ください。

※平成15年度の開催スケジュールの詳細は、全科協ホームページ (<http://jcsn.kahaku.go.jp/index.html>)「巡回展のご案内」をご覧ください。

○平成14年度第2回総会・第10回研究発表大会について

日程：平成15年3月11日(火)～13日(木)

11日(火)：理事会・総会

12日(水)：研究発表大会

13日(木)：施設見学

場所：神奈川県立 生命の星・地球博物館

(神奈川県小田原市入生田499)

※詳細はお送りしている開催通知をご覧ください。

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBORO CO., LTD.
東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー投映を可能にした小型・高精細のデジタルプラネタリウム。さらにドーム全天に高画質なCG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、さまざまなシーンで活躍します。



ISO14001 認証取得



ミノルタプラネタリウム株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪2-19-13 TEL.03-5423-7571
〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL.0533-89-3570
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町2-30 TEL.06-6386-4950
<http://www.minolta.com/japan/mp/index.html>

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…

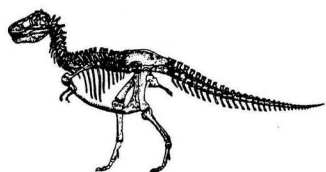
株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL <http://www.tanseisha.co.jp>

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子

滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 普及部普及課長 武田良正

独立行政法人国立科学博物館 普及部普及課専門職 原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館普及部普及課 村上 剛 久永美津子

Tel.03-5814-9857・9858 Fax.03-5814-9898

発行日 平成15年3月1日

発行 全国科学博物館協議会◎

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社